

宮城学院女子大学開学70周年

1949年に開学した本学は、2019年に開学70周年を迎えました。英文学科と音楽科の2学科からスタートし、現在では4学部9学科を設置。幅広い教養と専門的な学識を身に付け、自立して生きていくことができる女性を一貫して育ててきました。今年度

は開学70周年記念事業と題したイベントや取り組みを多数行っております。詳細は大学ホームページの「開学70周年特設サイト」をご覧ください。
特設サイトURL <http://www.mgu.ac.jp/main/about/mgu70th/>

「共生のための多様性宣言」とトランス女性の受け入れについて

本学は開学70周年を機に、「共生のための多様性宣言」を発表しました。多様性宣言は、本学の教育を未来に向かってさらに前進させることを学内外に表明したものです。このことはマスコミでも大きく取り上げられ、関係各方面から期待する声が寄せられています。

この宣言と連動する仕方、2021年度からのトランス女性受け入れを決定しました。社会全体が性的マイノリティの理解・受け入れに大きく方向転換しつつあります。本学はそのような動向に応じて、いかなるセクシュアリティの女性であれ、多様な生き方の技法としての教養と感性を磨くことができるように、教育的支援を行わせて頂きたいと願っています。

このたびの宣言とトランス女性受け入れについては、大学後援会の皆さま、学生、並びに、教職員を対象に説明会や学習会の場を設けてきました。たとえば、大学祭（10月）では、ドキュメンタリー映画『空と、木の実と』が、学生の自主活動「にじいるプロジェクト」と学生部の合同企画として上映されました。映画を鑑賞した学生た

ちは、国内最年少で性別適応手術を受け、固定化された従来の性別の枠組みでは捉えきれない人間存在のありかたを模索し続ける当事者の苦悩を知る貴重な機会を与えられました。その他に学友会秋季総会（11月）における情報共有会、外部講師による講演会（12月）なども実施されました。セクシュアリティ理解を深めるこうした教育的働きかけは今後も継続されます。一方、ガイドライン作成、及び、トイレ補修工事などの環境整備の検討を進めています。これらのハード・ソフト両面からの取り組みは、学生と教職員の双方に益する教育環境改善になると期待しております。

多様性宣言とトランス女性受け入れ決定は、本学の「いかなる人も育ちます、育てます」という隣人愛精神の具現化です。本学は、すべての女性に開かれたインクルーシブな大学をめざしています。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（「性の多様性と人権」委員会）



宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPOTERS REPORT 2019

vol.6



保護者の皆様へ

後援会会長
高橋 博

後援会会報の発行にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
保護者の皆様には、常日頃から後援会の活動に、ご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。
後援会は、大学と家庭の連絡を密にし、宮城学院女子大学大学院、女子大学発展の為に後援することを目的としています。
本会は上記の目的を達成するため、保護者の皆様からご協力いただきました貴重な財源を元に学生と大学に対して、種々の助成を行っています。主なものとして学生の課外活動や大学祭への支援、そして教育研究活動や就職指導関係費への助成等です。
今年度の新たな取り組みとしては、ブリックハウス（中央芝生広場に面した講義館の2階にある喫茶コーナー）の施設設備整備費への助成を行いました。限りある予算を最大限に有効活用できるよう、常任役員会等にて真剣な議論を重ねております。

さて、本会の活動は、4月4日の入学式の後に開催されました入会式に始まり、5月25日に開催された総会で今年度の事業計画等を承認いただき、今日まで計画通りに活動いたしております。
総会開催時には、毎年好評をいただいております音楽科によるミニコンサートの他、初めての試みとして、昨年度より創設されました「学長賞」受賞者による活動報告や成果発表を実施させていただきました。
音楽科によるミニコンサートは、三枚のスタンドグラスが飾られやかな雰囲気が出されている礼拝堂で、合唱やパイプオルガンの演奏があり、「とても素敵だった」「もっと長く聴きたかった」等、大好評でした。
また、午後からは、例年通り学生生活やキャリア支援に関する報告のほ

か、他の学生の模範となる活動を行った学生に贈られる「学長賞」受賞者から活動報告や成果発表がなされ、「学生の取り組み、発表が素晴らしい」等、高い評価を頂きました。

今後とも、保護者の皆様の声を真摯にお聞きし、次年度以降の活動に活かさせて頂きたいと思っております。

次に地区後援会の開催です。
地区後援会は、宮城県外にお住まいの保護者の皆様と、懇談を交えながら、情報の共有と連携を保つことを目的としておりまして、本会活動の重要な事業の一つです。

毎年、宮城県を除く東北地区5県で開催しております。

実施項目は

- ①後援会活動報告と大学の近況および就職状況報告
- ②在学生による就職活動体験談
- ③学業・学生生活および就職などの個別相談会

です。
保護者の方々から、「学長をはじめ、大学の教職員と直接会話ができて、とても良い時間を過ごすことができました。」「学生の生の声を聞くことができとても参考になりました。」等々、とても良かったとの感想を大変多くいただきました。

私たち後援会役員も、各地区の後援会に参加させて頂き、保護者の皆様の貴重なご意見をお伺いすることができ、有意義な時を過ごさせて頂きました。

先述させていただきましたとおり、地区後援会は学長をはじめとする教職員の方々との直接会話が出来る絶好の機会ですので、より多くの保護者の皆様にご参加いただければと思います。

後援会は、学生がさらに充実した学生生活を送ることが出来るように、且つ大学が益々発展することを念頭に活動を続けさせていただき所存です。

結びに、保護者の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

本学に新しい研究機関が開設されました

学長
平川 新

2019年、本学には二つの新しい研究機関が開設されました。一つは、地域子ども学研究センター、もう一つは生活環境科学研究所に設置されたミツバチ科学研究部門です。

地域子ども学研究センターは、子どもにとって安心な家庭と子育て支援の研究を促進するために設立されました。東日本大震災で生活基盤を破壊された被災地では、DV（家庭内暴力）が増加して家庭生活が不安定になったり、学校の閉鎖や移転などによって、不登校の児童が増えました。幼児にも、落ち着きがない多動や、高い攻撃性、ふさぎこみといった問題を抱えた子どもが少なくありません。

本学ではこれまで、教育学科の幼児教育専攻と児童教育専攻において子どもの育ちや心理、生活文化デザイン学科と食品栄養学科では家庭生活の要となる衣・食・住のあり方について、それぞれに専門的な研

究を進めてきました。そこで、本学が有するこうした強みを生かして地域子ども学研究センターを立ち上げ、各学科が連携して被災地が抱える子どもたちの課題解決に取り組んでいくことにしました。文科省の私立大学研究ブランディング事業に採択されています。

二つ目のミツバチ科学研究部門は、ジャパンローヤルゼリー株式会社の寄付により開設されたものです。ミツバチの生態や、ハチミツの成分・活用法に関する研究に取り組みます。本学は水の森公園に囲まれた自然豊かな環境ですので、ハチミツのもとになる蜜源が季節ごとにたくさんあります。こうした恵まれた環境を生かせる、本学ならではの研究部門です。大量生産はできませんが、MGブランドのハチミツも商品化したいと考えています。

ハチミツはお菓子の材料や健康食品として利用されることから学生の関心も高いのですが、高大連携事業の一環として同部門では、他大学に先駆けて高校生研究員を募集しました。今年度は13人の高校生が採用され、ミツバチの生態や蜜源の調査、ハチミツを使った新しいレシピの開発など、楽しそうに取り組んでいます。高校生のときから科学的探究心を培ってもらおうという試みですが、ユニークなテーマもありますので研究成果がとても楽しみです。

Campus Report

2019
「大学祭が開催されました」

10月19日（土）・20日（日）の両日、2019大学祭が開催されました。
今年のテーマは「Brand New Day～新しい物語の始まり～」。開学70周年を迎え、歴史や伝統を大切にしつつ、新たな歴史を刻んでいこうという気持ちが込められています。
初日はあいにくの雨模様でしたが翌日は晴天に恵まれ、保護者の皆様をはじめ地域の方々など、たくさんの方にご来場いただきました。
大学祭には、大学後援会から助成金のご支援をいただいております。今年度も盛大に開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。



よさこい部



チアリーディング部



ウインドオーケストラ部



箏曲部



子どもの人形劇遊び部



クラシックギター部



宮城学院女子大学後援会事務局（大学事務部庶務課内）

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

TEL 022-279-4698 FAX 022-279-7566 E-mail syomu@mgu.ac.jp.

2019年度 大学後援会総会が開催されました

礼拝・ミニコンサート



パイプオルガンの演奏を初めて聴きましたがとても良かったです。合唱もとても素敵でした。



オルガンの音色、きれいな歌声、ステンドグラスもとても素晴らしかったです。

5月25日(土)本学を会場に、2019年度大学後援会総会が開催され、約300名の保護者の方々にご参加いただきました。大学後援会総会は、年一回保護者の皆様と大学の関係を密にするために、様々な企画を行っております。

午前には、礼拝堂を会場に、礼拝と音楽科によるミニコンサートを開催しました。ミニコンサートでは、飯塚由美氏(本学オルガニスト)によるオルガン独奏、音楽科学生による二重唱、ソプラノ独唱&アンサンブルをお聴きいただきました。

昼食には、今年度も食品栄養学科平本ゼミの学生がプロデュースしたお弁当を提供し、ご参加いただいた皆様から大変好評をいただきました。

午後の総会では、高橋博会長の議事進行のもと各議題(2018年度事業報告および収支決算報告、2019年度事業計画および収支予算、役員を選任)を審議し、すべて承認されました。総会後は、本学の学生生活およびキャリア支援体制についての報告を行ったのち、昨年度より創設された、他の学生の模範となる活動を行った学生に贈られる「学長賞」を受賞した5組の団体による成果発表を行い、保護者の皆様も熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

その後は、各学科・専攻別の学科別クラス懇談、就職個別相談などを行いました。クラス懇談は、学業成績や学生生活などについて直接お話いただける機会のため、保護者の方々や学科の教員が和やかに懇談する様子が印象的でした。

当日のアンケートにお寄せいただいたご意見をもとに、来年度もさらにご満足いただけるよう企画してまいりますので、たくさんの方にご参加いただければ幸いです。

昼食



お昼のお弁当ありがとうございました。とても美味しかったです。できればレシピがあればと思いました。

総会



高橋会長の挨拶 平川学長の挨拶

学長賞受賞者による成果発表



いろいろな賞をもらい社会や町のために頑張っている学生さんが多いことが分かりました。



初めての試みでしたが様々な学習の成果を聞くことができ、とても良かったです。継続してほしい企画です。

学科別クラス懇談



人数が少なかったが、その分色々伺うことができ良かったです。

今日来てとても良かったです。安心して子供を通わせることができます。

就職個別相談



講師として就職した際のこと等、分かりやすく教えていただきました。また、世の中の時事について考えること等、私も勉強になりました。

地区後援会



今年度も宮城学院女子大学地区後援会を、東北地区の5会場(8/24福島市、8/25青森市、9/1山形市、9/7秋田市、9/8盛岡市)で開催しました。

地区後援会は、本学を会場に行われる後援会総会への出席が困難な県外にお住いの保護者の皆様と、地元で懇談を交えながら、大学の情報をできるだけ多く共有し、緊密な連携を保つことを目的に開催されています。

普段はなかなか接することができない、同地区の保護者の方々や本学教職員と昼食を囲みながら情報交換を行っていただけのため、例年ご満足いただけたとの感想を多くいただいております。

当日は、第一部として大学後援会活動報告、大学の取組みや行事等の説明を交えた大学近況報告、本学のキャリア支援および就職状況の説明を行いました。その後、ジュニアアドバイザー(在学生)による学生生活や就職活動体験談などの発表をインタビュー形式で行いました。保護者の皆様の関心も高く、多くの方々が学生の体験談に聞き入っていました。

第二部では、「個別相談会」が行われ、学業・学生生活や就職など、保護者の皆様のさまざまな疑問や質問に担当職員がお答えいたしました。

来年度も同時期に開催予定ですので、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。



福島地区



青森地区



山形地区



秋田地区



アンケートより

(全体・大学近況報告)

参加しなければ分らなかった近況報告に触れることができました。学生部長の先生や他の御父兄ともお話ができて良かったです。

遠方で学校の情報がなかなか耳に入らないことも多いので、聞いて良かったです。

娘と学内の話や行事の話を知りたいというため、大学生活がどのような雰囲気なのか分かりませんでした。ミッション系の特色を生かした行事など、良い体験ができていると感じました。

(就職活動体験談)

対話形式がとても聞きやすく印象的でした。学生さんも丁寧に答えてくれて良かったです。

学生の生の声を聞くことができ良かったです。自分の学びの過程を、事例を交えて平易な表現で伝えてくださっていて、イメージがしやすかったです。いきいごと魅力的だった。

楽しくお話を聞かせていただきました。今後の子どもの就職活動、親としての関わり方の参考にしていきたいと思いました。



岩手地区